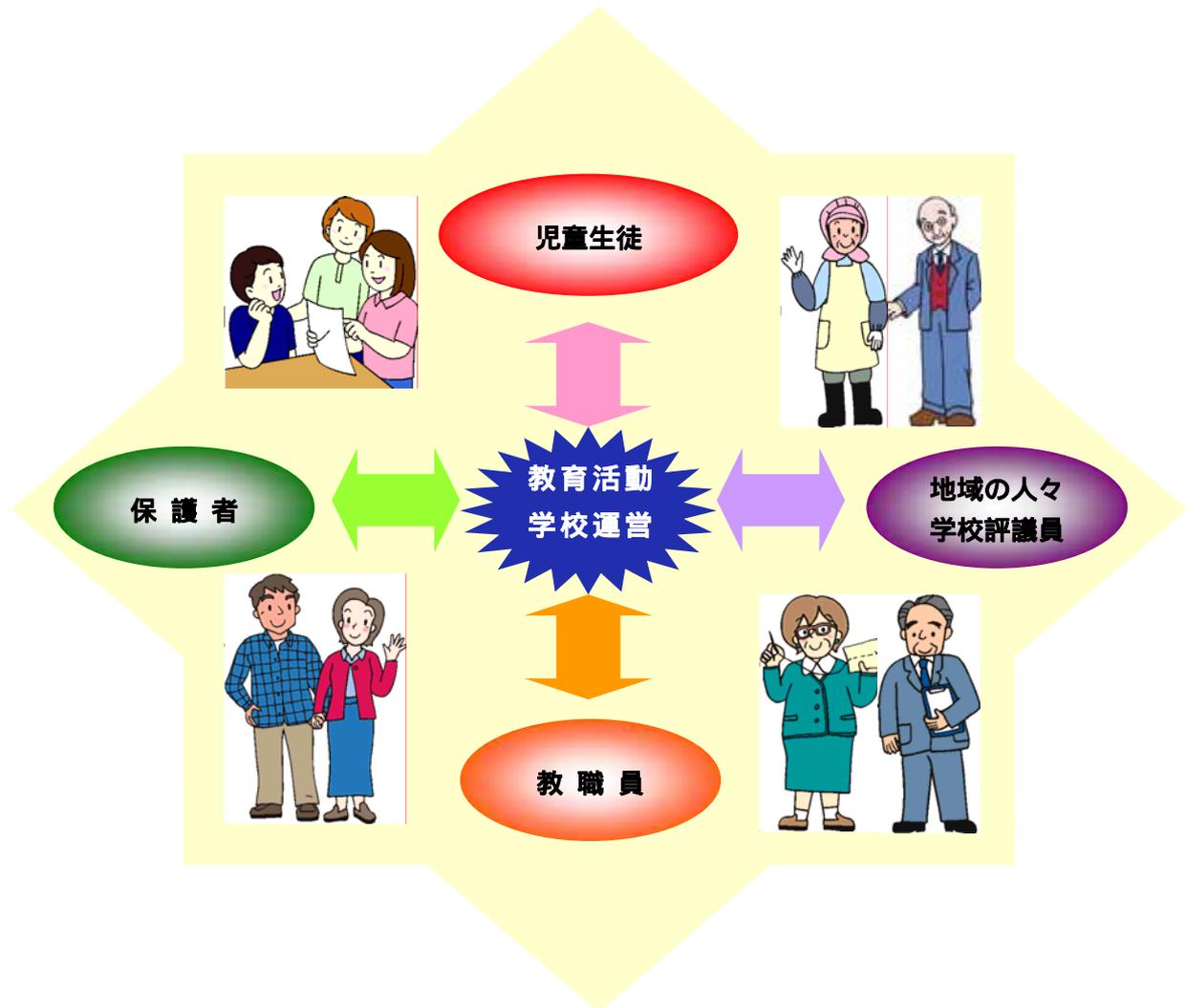


学校評価 Q & A

- 明日の学校づくりのために -



本資料は、栃木県教育委員会が発行した「学校評価の手引き」の趣旨をふまえて作成した校内研修のための参考資料です。

教職員の皆さん一人一人が、できるところから始めて、評価をこれからの学校改善に生かして下さることを期待します。

平成 17 年 3 月
栃木県総合教育センター

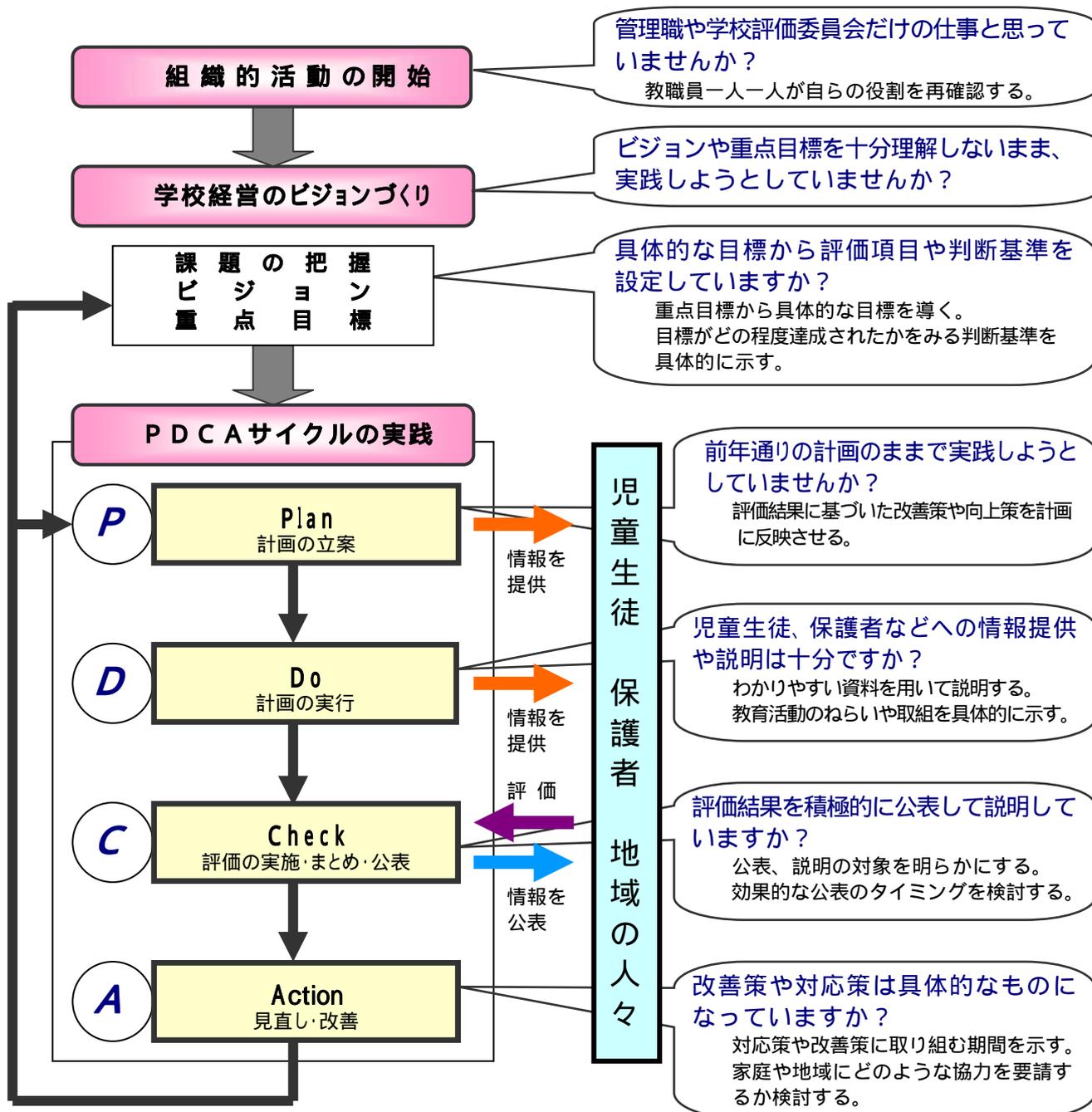
Q 1 これからはどのように学校評価に取り組みばよいのでしょうか？

A 1

これからは、教職員による自己点検・自己評価を中心に据えながらも、学校に対する理解と信頼を高めるため、保護者や地域の方々などによる評価も適切に取り入れます。そして、それぞれの学校の教育目標を、どの程度達成しているかを明らかにし、その結果に基づいて学校改善を図れるように学校評価をシステム化します。

学校評価システムの全体像と各段階で留意すべきポイント

- ・ 学校評価システムは、学校全体で組織的に取り組むことが大切です。
- ・ 評価を計画や実践と関連づけて、改善に生かすサイクルを繰り返すことで、システムの機能が高まっていきます。



年度の途中でも、改善できることにはすみやかに取り組むようにします。

Q 2 目標の達成状況を的確にとらえるためには、評価項目や判断基準をどのように設定したらよいでしょうか。

A 2

重点目標から具体的な目標を導き、さらに、その達成状況をとらえられるように数値化するなどの工夫をします。

評価票の形式や問いかけの仕方などの工夫については、他校で成果を上げた実践例を参考にすることができます。ただし、そのまま用いると自校の実態に合わない形だけのものになってしまう場合があるので、自校化することが大切です。

評価項目・判断基準の設定の手順

(1) 設定の手順を確認します。

重点目標の共通理解 : **ねらい、中心となる組織、達成時期を確認する。**
 具体的な目標の分析 : **目標達成までの段階を明らかにする。**
 具体策の確認 : **優先して取り組む内容を明らかにする。**
 評価方法の検討 : **成果や課題をとらえる視点を明らかにする。**

評価項目
判断基準

(2) 目標の達成状況をできるだけ数値などでとらえられるよう、評価方法を工夫します。

【事例】 目標達成までの段階を明らかにし、判断基準を数値化した例

A校では、落ち着いた学習環境づくりをめざして、2か年計画で読書活動の推進に取り組んでいます。そして、次のように目標達成までの段階をとらえ、評価の時期と方法を検討しました。

目標達成までの段階（取組の1年目）

- ・ 夏休みまでに、ゆとりある登校や朝の読書の定着をめざす。
- ・ 10月頃には、授業に臨む姿勢の変化や学習への波及効果が現れることをめざす。
- ・ 冬休み以降、家庭での読書習慣の確立をめざす。

評価の時期と方法（意識調査の対象：教職員、生徒、保護者）

- ・ 成果や課題をできるだけはやく把握するため、読書推進強化期間に合わせて行う。
- ・ 意識調査などの結果は、各選択肢を選んだ割合などに着目し、数値などに表す。

【判断基準の例】

	数値でとらえやすい項目	数値でとらえにくい項目	
目 標	時間にゆとりをもって登校するようになり、遅刻者数が減少する。	落ち着いた気持ちで授業に臨めるようになる。	
評価項目 質問項目	遅刻者数の把握。	朝の読書のあとは、落ち着いた気持ちで授業に参加できますか。	
評価方法	取組前の段階を基準として、遅刻者数の減少率を把握する。読書推進強化期間前、中、後のそれぞれ1週間ずつ調査する。	意識調査で、回答状況を取組前と比較する。選択肢が からの四つの場合、「かなりあてはまる」を5点、「ややあてはまる」を3点とするなど、回答を点数化する。	
A	かなり満足できる。	20%以上の減少。	平均 4.0 以上。
B	ほぼ満足できる。	10%以上・20%未満の減少。	平均 3.0 以上・4.0 未満。
C	努力が必要である。	5%以上・10%未満の減少。	平均 2.0 以上・3.0 未満。
D	改善が必要である。	5%未満の減少。	平均 2.0 未満。

達成状況をA、B、Cなどの記号を用いて表すと、異なる時期、項目の評価結果を比較したり、まとめたりすることが容易になります。

Q 3 さまざまな人々による評価の結果は、どのようにまとめたらよいでしょうか。

A 3

教職員による自己点検・自己評価の結果を柱とし、教職員以外の人々による評価の結果とも比較できるようにまとめ、さまざまな意見を集約します。

これらの内容については、学校の主体性と責任のもとに、教育活動や学校運営の改善に生かすことが大切です。

評価の集計シートの工夫

評価の集計シートを作成する場合には、さまざまな人々による評価の結果を比較できるような記入欄を設けたり、目標、実践、評価、改善の流れが見えるようにシート全体の形式を工夫したりします。

【事例】工夫した集計シートを用いて年度途中で改善策を明らかにした例

B校では、質問紙やチェックリストなど、個別の評価票を用いて得られた結果から、あらかじめ設定した判断基準をもとに、達成状況をA、B、Cなどの記号に表して一枚の集計シートに記入しています。このような集計シートを用いて、年度途中にも改善策を検討するようにしています。

重点目標(1)	自転車に関する交通法規を理解し、自他の生命尊重を基本として安全な自転車走行ができるようにする。					
具体的な目標 (評価項目)	具体策		評価			改善策
	内容	推進の 中心組織	1回	2回	学年末	
安全な自転車の乗り方や登下校等、交通规则やマナーを守ることができる。 (ヘルメットの着用率)	「チェックテスト」を用いて交通安全に関する知識と行動について確認し、話し合いを通して安全に対する意識を高める。 (学級活動)	学年	7/6 教職員 (C) 生徒 (C) 保護者 (D)	/ 教職員 生徒 保護者	/ 教職員 生徒 保護者	「チェックテスト」の結果や生徒の登下校の状況を保護者に伝え、ヘルメットの着用や自転車の安全点検について協力を求める。 (7月)
		学級担任	保護者への説明を工夫する。			
	重点指導地区を設け、保護者と協力して登校指導を行う。 (交通安全強化週間)	生徒指導部	教職員 (B) 生徒 (-) 保護者 (C)	教職員 生徒 保護者	教職員 生徒 保護者	登校指導に協力した保護者の意見を生かし、2学期からは、生徒会による取組を促すこととした。(7月)

ポイント
学期ごとに課題を明らかにして、すみやかに改善策を検討する。

ポイント
・ 評価者ごとの結果を比較できるように記入する。
・ 目標や判断基準に照らして、実践の結果を評価する。

Q 4 評価結果を公表するねらいはどのようなことですか。また、公表する場合には、どのような点に留意すればよいでしょうか。

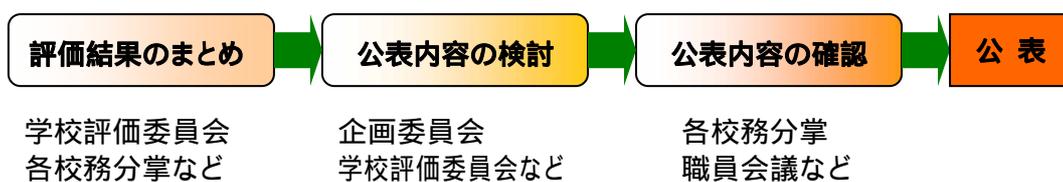
A 4

評価結果の公表は、保護者や地域の人々に学校を理解し、信頼してもらい、よりよい学校づくりのための支援や協力を得るために行います。

なお、公表する際の資料および説明は、保護者や地域の人々などにもわかりやすい内容・表現にすることが大切です。

公表の手順は

- ・ 公表の手順の中に、内容を検討したり、確認したりする段階を位置づけます。



- ・ 全教職員が、公表する内容を理解して説明できるようにしておきます。

まとめ方のポイントは

- ・ 成果ばかりではなく、学校の状況、今後の課題や取組方針などをまとめます。
- ・ 評価結果の数値は、経年変化や学期ごとの変化をみて考察します。
- ・ 図やグラフを効果的に用います。
- ・ 用語の使い方に注意し、わかりやすい表現にします。

公表する内容は

- ・ 保護者や地域の方々による評価の結果については、できるだけ公表します。
- ・ 児童生徒による評価は、指導の改善に生かすことが大切です。評価結果を示すだけでなく、対処の方法や改善の状況についても説明するようにします。
- ・ 教職員による点検・評価の結果は、重点目標を中心に簡潔にまとめて公表します。

資料を配付したり、ホームページで発信したりするだけでなく、口頭で十分な説明を加えることが大切です。

【事例】学習指導に関する成果と課題について保護者に口頭で説明した例

C校では、学力向上に向けた取組の一環として、学習指導の成果と課題について、保護者にわかりやすく説明することを重点目標としました。

公表する内容を学年ごとにまとめ、学級担任が2学期末の保護者会で口頭による説明を行いました。

6学年の学習指導の成果と課題

- ・ ほとんどの教科で、多くの児童がおおむね満足できる状況にまで到達した。
- ・ 国語では、「相手の意図をつかみながら聞いて、目的や場に応じた適切な言葉遣いで話すことができる」という目標を設定したが、達成できた児童は全体の5割程度である。
- ・ 国語については、3学期始めに具体策を示して対応する。

【事例】重点目標に対する評価結果を保護者に公表した例(1)

D校では、年度始めに「本校はこんな取組に力を入れます」という重点目標を保護者に示しています。また、年度途中に、その目標の達成状況を、資料にまとめて保護者に公表しています。

資料 重点目標の達成状況について（平成16年度2学期）

重点目標

児童の豊かな心を育むために、学校や家庭での読書活動を推進して、読書習慣の確立をめざします。

具体策に着目し、取組の成果を明らかにします。

具体的な目標() 評価項目()	評価結果	考察
図書館や各学級の 図書コーナーの利用を 活発にする。 図書の利用数、貸出数 の推移をみる。	<p>図書の利用数・貸出数の推移</p> <p>15年度 1学期 2学期 学年末 16年度 1学期 2学期</p> <p>100 200 300</p> <p>1学期の貸出数を100として比較した。</p>	<p>前年度の途中までは、あまり増加がみられませんでした。今年度は、高い値を示しています。</p>
「おすすめの本リスト」 を用いて、図書の貸し出しを促す。 リスト掲載の本の貸出数と、リスト以外の本の貸出数を比較する。	<p>「おすすめの本リスト」の本の貸出数の推移</p> <p>リスト掲載の本 16年度 1学期 2学期 リスト以外の本 16年度 1学期 2学期</p> <p>100 200 300</p> <p>1学期の貸出数を100として比較した。</p>	<p>1学期よりも本の貸出数が増えています。 リストに掲載した本は、たいへん人気があります。</p>
家庭での読書を支援して、親子の心のふれあいを深める。 読書活動に関する調査を実施し、保護者の意識を探る。 (保護者の方々へ) 家庭での親子読書は、お子さんとの心のふれあいに役立ったと思いますか。	<p>「読書活動」と「心のふれあい」(保護者)</p> <p>15年度 学年末 16年度 1学期 16年度 2学期</p> <p>0 25 50 75 100 %</p> <p>■ かなり役立ったと思う ▨ ある程度役立ったと思う ▩ あまり役立ったと思わない □ わからない</p>	<p>家庭での読書が心のふれあいに役立ったと感じている方が増えています。</p>

小規模校の場合、結果を実際の数で表したり、記述欄に多く寄せられた意見・感想を中心に考察したりします。

記述欄に寄せられた意見・感想

- ・ 今年度は、先生や子どもたち、保護者の方々から「おすすめの本」を紹介してもらるので、家庭で本を選ぶ際に、とても役立ちました。
- ・ おすすめの本について、学校でも担任の先生がもっと話題にしていただけると、子どもたちもさらに本に対して興味を持つと思います。

今後の取組の方針

- ・ 学級の図書コーナーの利用ノートに、子どもたちが本の感想を記入できるように工夫したいと思います。さらに、帰りの会などで、それらの内容にふれたいと思います。

意見、要望を引用して改善の方針を示します。

【事例】重点目標に対する評価結果を保護者に公表した例(2)

E校では、異なる評価者による評価の結果を比較し、改善策や向上策を検討しています。そして、これらの内容を資料にまとめて公表しています。

資料 努力目標の達成状況について（平成16年度1学期）

努力目標(重点目標)

生徒および保護者のみなさんに、これまで以上に効果的に進路情報を提供して、進路指導の充実を図ります。

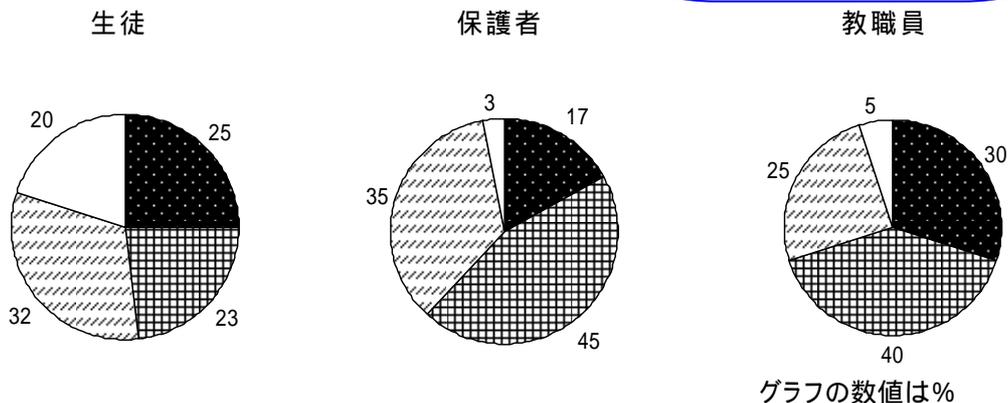
具体的な取組

3学年の7月から3月までは、進路決定のための重要な期間です。4月から進路説明会や面談などの機会を生かして進路情報を提供します。

評価結果と考察

進路指導部と3学年の担任が中心となって、1学期始めから、進路選択に役立つ情報の提供に取り組んできました。しかし、生徒、保護者、教職員の三者の評価結果から、情報提供に不十分な面があることが明らかになりました。

三者の評価結果のずれを改善の糸口ととらえます。



- | | |
|-------------------|------------------|
| ■ かなり役立っている | ▨ どちらかといえば役立っている |
| ▩ どちらかといえば役立っていない | □ ほとんど役立っていない |

記述欄の回答例(「かなり役立っている」以外の回答の場合に記入していただきました。)

生徒

- 希望する進路先の情報を入手する方法がわかりにくい。
- 進路説明会や面談の前に、どんな情報に目を通しておいたらよいかわからない。

保護者

- 学校では、いつ、どのような指導が行われているのかわかりにくい。
- ホームページを通して進路情報を提供してほしい。

改善のための具体的なヒントを得ます。

改善策

- 進路情報は学校の進路室にそろえてあります。進路情報を入手する方法や、それぞれの時期に取り組むべきことを、「進路室だより」の中で説明します。毎月1回、家庭用を含めて生徒一人一人に2部ずつ配付します。
- 「進路室だより」は学校のホームページにも公開しますので、ご覧ください。
- 2学期から「進路室だより」を1、2学年向けにも作成することにしました。

Q 5 学校評価の結果をどのように改善に生かしていけばよいでしょうか。

A 5

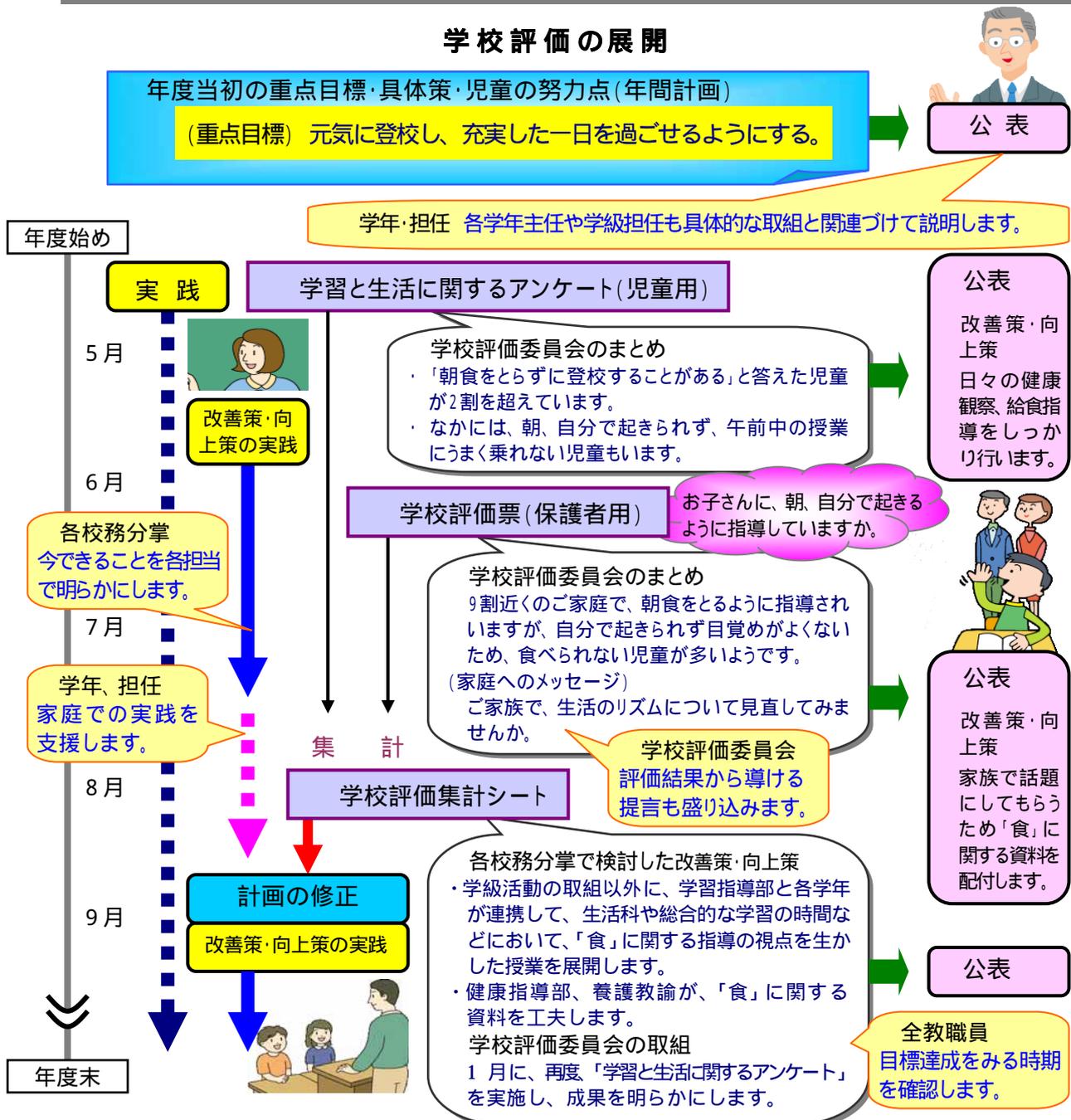
教育活動や学校運営は切れ目なく続くため、改善に取り組むきっかけがなかなかつかめないのが現状です。評価結果だけでなく改善策や向上策を適切なタイミングで公表することによって、改善に取り組むきっかけをつかむことができます。

また、改善策や向上策の実行は、全教職員の共通理解のもと、一人一人ができる小さなおところからはじめ、評価によって成果を明らかにします。このような取組によって、着実に重点目標の達成に近づくと考えられます。

【事例】評価・公表・改善の流れを重視して、改善策・向上策に取り組んでいる例

F校では、今年度の前期は、学校評価委員会が児童によるアンケートの結果をもとに「食」に関する現状を明らかにし、全教職員による組織的な取組を推進しています。

学校評価の展開



学校評価システムによって、教職員一人一人の力が一つにまとまります！